

地域の会準備会に参加されなかった委員と事務局の懇談会

日時	平成15年6月20日(金)		
場所	(財)柏崎原子力広報センター・研修室		
出席委員	浅賀・新野・今井・金子・川口・柴野・本間・牧・渡辺(洋)	以上	9名
欠席委員	中村・伊比・吉田	以上	3名

意見の概要

2回の定例会、1回の現況視察を終えての感想

やりとりに参加できない理由

- ・ 非常にしゃべりにくい会だと感じている。マイクで話すこと自体に抵抗があり、又、マスコミの同席もプレッシャーに感じる。
- ・ こんな程度の事を話す者が委員になっていて、この会は一体どうなるんだというようなことを思わせはしないかと思うと言葉が出ない。
- ・ ものの言いにくさが出てくるのは、知識が不十分で原発について何を申したらいいいのか、テーマについての自分の考えをまとめきれないでいるせいだと思っている。
- ・ マスコミが苦手で、意見がまとまらないうちに手をあげることもあるので、やはりちょっと困るなと思うこともある。

会議の進行

- ・ 1つの話が出ると、それを議長がまとめ、また次の別の話が出るとそれをまとめるといった感じで、なかなか話が深まらない。
- ・ 議論してないところで、東電関係者や国から来た人に説明をさせて、議論するというのは無理がある。例えば、ひび割れならひび割れの問題を東電側とこちら側の専門家同士に話をさせて、委員がそこに参加していくという形でないと難しい。
- ・ 1人の方が話すの関係者が答えるといった1対1のやりとりではなく、24人の中で、なんらかの意見をまとめ、それから関係者に聞くようにしたい。ただ説明だけを聞くような会にはしたくない。

テーマについて

- ・ 委員の方でも、テーマが何であるのかよくわからないからなんだろうとは思っている。少人数で事前に打ち合わせをしてテーマを決めて、今日はこれでいくというような形でやらないと、まとまらないのではないかと思う。
- ・ 肩肘張らない中で、少しずつ市民の皆さんに、地域の会というのはこういうことをやってもらっていて、自分たちの疑問の点も少し分かってきたというようなものになればな。そういう意味では、テーマを少し絞って方が良い。
- ・ 考え方の違う24人なので、テーマを決めて定例会で議論するという方向というのは難しいと思う。
- ・ ざっくりばらんに言うと、テーマを決めるとなかなかまとまらないので、1回2回のときのようにフリートークのような形で、お互いの意見を出し合い、事務局のほうで提言するものを選定して...というのも1つのやり方だと思う。
- ・ この会は透明性を維持するということであるから、この会をやっていることで公開を透明にしていくというのがほんとの主旨だと思う。
色々な方面から情報を提供してもらい、それについて質疑応答していくという形でやっていくのがいいと思う。あまりテーマを絞ると、会として方向が定まらないのではないか。

- ・ テーマというのは、やはり私も絞るべきでないと思う。
- ・ 出席しているメンバーのレベル、思い入れ、立場、原発に対する知識とかというものの差がありすぎて、それを1つのところにおいてテーマを決めずにやるので、話があちこちにいつてしまつてまとまることがない。それもやむを得ないのかな。
- ・ この会が専門家になる必要があるのなら研修会をやらなければならないと思うが、それよりむしろ、「視点」という形で市民に配られるのだから、市民が何を感じて、何を求めているのかということに視点をおいて、1つ1つの事を勉強し、結論を出せるものは出し、聞きたいものは、この会で東電なりに聞き出す。そういう場にしてもらえればと。そういう意味では、テーマというのは細く絞ると議論に入れる人が限られてくるので、ちょっと広くしながら議論していかないと、成果がなかなか見えてこない。
- ・ 特に内容については企業倫理の問題が第一だと思う。なので、現場視察はとても効果があったと思う。
- ・ 東電の技術の関係の人や定検にたずさわっている人と地域の会のメンバーでの、懇談会、意見交換というものも考えたらいかがなものか
- ・ 分科会を設けるとか、少人数でテーマを決めるとかという話もあるが、今、4号機の運転再開ということが言われているので、今度の定例会はその辺の話を聞くということでもいい。
- ・ この会に参加はしないが、この会の存在をわかっている方が多少関心を持ってくださると思うので、そういう方たちに何かを伝える努力も、もう少し必要なと思う。そういう方たちが、今関心を持っている4号機の運転再開という問題は、やはりそういう意味でも避けて通れないのではないかと思う。
- ・ 方向性が見えないのは、事務局のご苦労もあったかと思う。
そういう点では、今皆さんの意見を伺っていて、次のテーマは4号機に関することでもいいのかなと思いました。
- ・ 3月の頃に、夏のエネルギーの事が騒がれはじめ、それが会の発足と重なって、その話題がどこかに入ってくるかと思っていたのだがなかなか入れない、その難しさもわかるのだけれども、でもそれは避けて通ったら、この会は何なんだということになる。

会の意義

- ・ 資料をいただいて、この会は一切何なんだ...というのが第一印象。監督する権限もなければ何もなし。ただこういう会を開いていれば東電への牽制にはなるから、会を開いている自体で、会の目的はある程度達するのではないかとは思ふ。
- ・ 要望しておきたいのは、基本的に国が信用ならないということ。1号機のヒアリングのとき、あれだけ反対派が大騒ぎをしたあの事を知っている東電の社員が今いるのか、発電所を設置したときの苦労というのをわかっていない。
こういう会がなければ、また同じことをやる可能性もなきにしもあらずと考えている。だからこの会ができたことで、非常に期待しているところである。
- ・ 会が開かれる前は、いろんなことが決まってなさそうなことに好感が持てて、自分たちがいろいろ決められるのかなあという気持ちがあった。
いざスタートしてみると、もうすでに先が読めないような、この先どうなるのだろうというような不安が出てきた。
23人の考え方がまだ全然読めなくて、それに加え前段が長く、委員が話せる時間が限られる。

- ・ 意見交換を立場を超えてというのは、それも大変なことなのだが、一歩ずつ皆さんに近づけるためには、こういう会（事務局との懇談会）はありがたい。

会の運営について

テーマについて

- ・ 前回の定例会で、県が法的責任はないと言いつつ、技術委員を設けてアドバイスをもらっている話をしていたが、県が何を心配して何を追求しているのか、もっとあからさまに聞かせてもらいたい。県との検討会というのも一度持ってもらいたい。
- ・ 自分の置かれた立場立場の中での意見や質問を言えばいいのであって、専門的なことを言う人たちには、専門的な部分をその人たちに説明してもらったり、意見を言ってもらったりすればいいわけで、そうすると必然的にテーマを決められなくなる。だから今まで通りのやり方というのが非常にベターではないかと。
- ・ この前もテーマはあったのだが、その時その時で自分の思っていることを言うからテーマがあってもテーマにのらない。みんながこのテーマでみんなで作ろうということであれば、そうなるのだから。
- ・ テーマはやはり必要だと思う。まとめようと思うと難儀なので、テーマは必要だと思うが、広さとか深さについては会の自由にまかせたらいいのではないかと。

進行方法について

- ・ 毎回、東京電力や国がオブザーバーとして来る必要はないと思う。この会で話し合った中で、この点について説明を聞きたい、質問したいとか、そういった時に呼び出す形で来てもらうとか、別室で待機してもらうとか。原則的にはメンバーと事務局との会議を毎回もっていくという形がいいと思う。
- ・ 東電・行政に対して、全員一致とまではいなくても、会で決まったことに関してのみ次の行動に移してもらいたい。東電・行政に対して何か働きかけをするなら、確実に全体の意見としてこれをやってもらいたいというディスカッションがあった時だけにしてほしい。
- ・ 私たちの議論を十分汲み尽くして行ってほしいと思うので、東電等から発言のない場合もあるとは思いますが、ここにしっかり意思参加して行ってほしい。
- ・ 東電の話だけ聞いていると、何が問題なのかの話をしないから、わかりづらい。東電が説明するときには、それについて批判的な立場から説明できる人にも話を聞かせてもらったほうが、問題点のポイントが浮き上がってくるような形になるし、積み重ねていけば勉強にもなる。原則的に、両側の意見を聞いて説明を受けるといような形を心がけていくのがいいと思う。

その他

- ・ 皆さんの気心が知れない現段階では、言葉のとらえ方によっては、自分の意志が的確に相手に伝わっているのか不安になる。短い時間の中では、その誤解を解く時間もないし、そういう意味では、こういう単発の事務局招集の会も必要かと思う。
- ・ この会は議決して、事を決するわけではない。推進派と反対派がいて1つの結論が出るということはまず考えられない。お互いに言いたいことを言い合い、これが国や東電にどんな風に伝わって、どういう反応を示すかということだと思うので、この会が性急に動く必要はないと思う。
- ・ 今回のまとめの資料の中に、「事業者等は会での議論、意見等をできるだけ尊重するこ

とにしている...そしてそれが不正の再発防止に資する」ということが書かれてあるが、この指摘が大事だと思う。

- ・ ここでやる議論によって原発側がどれだけこの議論を吸収し、自分たちの透明性を高めるために努力しているか - そしてそれが私たちの目にも見えてくる。そしてまた次の議論へと発展し、また東電を動かす。そういうことが地域の住民にも見えていくようにするというのが、この会にとっては非常に大事かと思う。
- ・ 2回の定例会で、これだけの成果があるということだけでも、無力な会ではないと感じる。
- ・ 私どもがボールを投げ、向こうが受け止めて業務の中にそれを生かしていく - それをまたつかんで私どもが投げ返す - そういような会の性質なんじゃないかなと思う。
- ・ 定例会は月に1回ということで、その他勉強したいとか、事務局の判断で何か...というときには、招集をかければいいのではないかと。
- ・ 基礎講座程度のことなら、東電のPR館行けば説明してもらえる。レベルというけれど、レベルなんて合うわけがない。それを合わせようとするから無理がくる。このメンバーでも、慣れてきて、会を重ねれば話しやすくもなると思う。慣れてくれば、反対派だろうが、推進派だろうが、自由に好きなことが言えるようになると思う。そうなるまで、辛抱強くいるということではないか。
- ・ 上のレベルに合わせてまでやらなければならない会なのかということ、じっくり考えてみると、それこそこんな形でやられているものではないと思うので、やはり市民のみなさんが疑問に思っていることを代弁しながら、そのことについて私は私の言葉で東電に質してみる、専門的な方は専門用語で言えばいいわけで...そういうことで、少しずつ段階を経ながら1年、2年かけてでいいのではないかと思う。また、2時間の時間の中で10分とか15分、基礎講座をやりながら話に入っていくということでもいいのではないか。
- ・ 専門的な方のレベルに合わせるのは、至難の業。ただ、それを反対派が言うからといって感情的になるのか、それともそういった見方もあるのかと捉えるのか。私たちの知らない部分を言われたときの受け止め方だと思う。
感情も確かに出てくるかもしれませんが、今、また一歩ずつ、皆さんが何でも言える場を持つというのは大事かなと思いました。
- ・ 肉声での会議のほうがいいなとは思いますが、少しは私も会議に参加できそうな感じがしてきました。

4号機運転再開の動きについて

- ・ 4号機の再開に関しては国・保安院、東電も何回も市民に対して説明しているし、特にこの会で議論しなくてもいいのではないかと。説明しなければならないようなことが、2度と起こらないようにすることが一番の主旨だと思うので。一般住民に対しての説明と同じことを、ここでやらなくてもと思う。
- ・ 4号機の問題をやることに反対ではない。ただ、今までのように、東電の説明があってそれから議論ではなく、まずこちら側で4号機なら4号機の問題がどこにあるかを勉強し、じゃあ東電にこことここを聞こうというような形がいいと思う。
会の運営は難しいと思うのだが、あまりにも時代・状況にかけ離れた話ばかりを延々とやっていてもしょうがないと思う。4号機に関してはここで日程として上がってくれば、扱いたい。

- ・ 多数決をとるには、難しい会。また、そういうことをすべきじゃないとも思う。4号機の問題も出ましたが、地域の会としても市民が一番関心を持っているものに触れないのはどうかと思うし、避けて通れないものでもあると思うので、確かに国や東電の説明もありますが、土俵にのせてもいいのではないかと。
- ・ タイムリーなものは、やはりその時点その時点で取り組まなければならないのではと思う。運転する・しないの話は別にして、どこがどうで、どうなったかというような話をきちっと聞くべきだと思う。
- ・ この会は透明性をどうやって確保するかということが目的。4号機や7号機を動かすといった時に、何故この会に話がなかったのかと確かに思いましたが、個々のことにはあまりかわらなくてもいいんじゃないかと思う。
- ・ タイムリーなことには、あまりこだわらなくてもいいと今は考えている。
- ・ 国や東電の説明会というのは、あちらの意思の説明会であって、ここはそういう会ではない。そういう単発のやりとりではなく、この会が聞きたいこと、安心安全の最低限、ああいう会で出なかった意見があるかもしれないし、この会としての意見を市民の皆さんに聞いていただくことが大事なのではないか。市民の多くの方の疑問を代弁する形にしなければならないと思うので、この会で意見を出し合えたらいいと思う。
- ・ 市民にこういったものに興味関心を持ってもらうには、やはり中身。抽象的なことを話してるなと捉えられるのと、今一番興味のある話題をとりあげているなと捉えられるのでは、全然違った結果を生むと思う。4号機を止める、動かせということではなく、自分たちが思っていることを、自由活発に話し合える場があるのだという意義を長い目で見ていただきたいと思うので、そういう話を避けて遠い話をするのではなく、両方が必要だと思う。非常に難しいとは思いますが、やはり逃げずに結論を早急に求めずに、言いたいことは言わねばならないと思うのですが。

マスコミフルオープンについて

- ・ マスコミがいるとしゃべりづらいというのも事実なのだが、マスコミをシャットアウトしてやった場合、一般の住民、県民、市民の持つ感情としてはクローズで、誰もが自由に聞けるという開かれた感じに思えないのではないかと思う。
まがりなりにも、市民の意見を代弁するんだという形であるならば、マスコミもそのうち飽きると思うので、形の上でもクローズにするのはまずいのではないかと思う。
クローズにはしないが、あまり映さないでくれというようなことはやってもいいと思うが。

今後の会場は広報センターを考えているが？

- ・ 会場はどこでも良い。商工会議所でもよい、こだわらない。
- ・ 会場は、24人が中心になれるような、24人が意見を交わしているといったスタイルにしてもらいたい。
- ・ 向かい側の委員さんの名札が読めるような位置で、議論したい。3人がけでもいい。